

学校名	只見町立朝日小学校
授業者	加藤 英子

## 1. 単元計画

### 1-1. 単元名

只見町の未来を考えよう

### 1-2. 学年

第6学年

### 1-3. 教科

総合的な学習の時間

### 1-4. 単元の概要

6学年の総合的な学習のテーマは「只見の未来を考えよう」である。

本単元は、地球規模の環境問題や海洋の問題の解決が、只見の環境を守ることに繋がっていることに気付き、持続可能な只見町にするために、自分たちにできることを考え行動することのできる単元である。近年、日本や世界で起きている環境問題から、只見町で起きている雪不足や集中豪雨について調べていくことで、地球規模の環境問題を自分事としてとらえことができると思われる。また、その原因を探究することで、自分たちにできることがあることに気付き、その取組を自ら実行したり、発信したりすることにつながる。その姿は、6年生で目指す児童像そのものであり、6年間で目指す児童の姿に迫ることのできる単元である。

### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

#### ○単元のねらい

自分たちの思いを発表する上での課題に気付き、そのことを確かなものにするために話し合うことを通して、ふるさとの未来についての思いを深めることができる。

#### ○単元設定の理由

##### (1) 児童の実態

総合的な学習の時間は、男子3名、女子2名、特別支援学級の男子1名の計6名で学習を行っている。児童は今年度、海洋交流学習の学びから、海へのあこがれと同時に海の抱える問題に気付き、川の上流部としての責任として、ゴミのないきれいな町にしていくことの大切さに気付くことができた。また、これまでの学習の中で一昨年の雪不足や集中豪雨、地球規模の異常気象の原因が地球温暖化であることに気付き、このまま温暖化が進めば、町の良さである豊かな自然や多くの生き物、おいしい農作物を育てていくことが困難になっていくのではないかという思いをもつことができた。その問題解決のためには、温暖化防止の取組が必大切であると考え、学習発表会で発表したり、学校全体で節電・節水・食品ロスの削減を呼びかけ実行したりすることができた。

学習を進めていくうちに、課題を自分事としてとらえ、主体的に考え行動できる子が増えてきている。

また実践していく中で、自分たちだけでの取り組みには限界があるのを感じ、「多くの人の協力を得たい。」「自分たちの思いをたくさんの人に伝えたい。」という気持ちが高まってきている。

## (2) 指導観

本単元では、自分たちのふるさとを守るためには、地球環境や海洋の問題を避けて通ることはできないということに気付けるよう、最近気になっている異常気象の事例から、環境問題や海洋の問題を調べたり、その原因について調べたりする時間を十分確保し、それらの課題は他人事ではなく、自分たちも大きく関わる問題であることに気付かせたい。また、解決のための行動も、単発なものにならないよう、自分たちの行動の成果や課題について話し合いながら学習を進めていくことで、「只見愛をもち、ふるさとを持続・発展させるために考え、未来へ向かって行動できる児童」という、6年間で目指す児童の姿に迫れるようにしたい。

また、「自分たちの思いをたくさんの人に伝えたい。」「只見町の影響力のある大人の方に伝えたい。」という児童の思いを実現できるような場を設定したい。その際、自分たちの思いを伝えるだけでなく、発表に対する感想やアドバイスをいただくことで、それらの課題を自分事としてとらえ、主体的な学びにつなげていきたい。

前時では、町下庁舎で発表するための発表資料を外部の方に見ていただき、「何のために町下庁舎で発表するのか。」「発表を聞いてもらって何をしてほしいのか。」ということを指摘してもらう活動を設定した。本時では、前時で受けた指摘を受けて、自分たちに足りなかったことを明確にし、それを解決するために話し合うことで、課題をより自分事としてとらえ、自分たちの行動は夢物語ではなく、解決に向けての確かな一歩になることを実感できるようにしたい。そのためにも、子供の思いを引き出せるような発問、問い返しやゆさぶりを入れるなどしてねらいに迫るコーディネートをしていきたい。

## 1-6. 育みたい資質や能力、態度




〈話し合いを通じて、自分の考えを高める力〉

自分たちが足りなかったことに気づき、それを明確にするために話し合うことで、自分の考えを高める力を高めたい。更に、その課題を自分事として捉えさせることで、主体的に学ぶ態度へとつなげていきたい。

## 1-7. 単元の展開（全 時間）

段階	時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
	1	○ 最近の気象問題や只見町で起きている変化について話し合う。(1)	夏休み期間中、多くの地域で大雨による被害をうけたことや、只見町でも午後になると極端に強い雨が降った事例から、自分が知っている環境問題について話し合う。  問いを解決できるように、調べ学習の計画を立てることができる。  〈問題を発見する力〉
	2	○ 学習計画を立てる。(1)	

<p>3 ～ 14</p>	<p>○ 異常気象の起こる原因を調べ、自分たちができることを考え提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本各地・世界で起きている異常気象について調べる。 (2)</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・温暖化の原因について調べる。 (2)</li> <li>・自分たちができることを考え、発表することができる。 (8)</li> </ul>  <p>(学習発表会)</p>	<p>インターネットの情報から、分かったことをまとめることができる。</p> <p>〈言語スキル・ICTスキル〉</p> <p>友だちと協力しながら課題を解決のための方法を考えることができる。</p> <p>〈問題を解決する力〉</p> <p>自分たちの思いを提案したり、伝えたりすることができる。</p> <p>〈プレゼンテーション力〉</p>
<p>15 ～ 26</p>	<p>○ 只見町を守るために、自分たちができることを考え行動しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちができることにチャレンジする準備をし、行動することができる。 (3)</li> </ul> <p>(給食を残さない・節電・節水チャレンジ)</p>   <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャレンジしたことを振り返る。 (2)</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの思いを話し合う。 (1)</li> <li>・発表の準備をする。 (4)</li> </ul>  	<p>自分たちができることにチャレンジすることができる。</p> <p>〈協力して社会づくりに参画する力〉</p> <p>どのくらい効果があったか振り返り、次の計画をたてる。</p> <p>&lt;振り返りから次に学ぶべきことを探す適応的学習能力&gt;</p> <p>自分たちの思いが伝わる発表資料を作成する。</p> <p>自分たちの発表資料を外部の方に見てもらい、よりいものになるようアドバイスをもらう。</p> <p>〈問題を発見する力 コミュニケーション力〉</p>

	<p style="text-align: center;">本時（3 / 4）</p>  <p>○ 只見町の未来を考えて発信しよう。        ・ 地域の人に自分たちの思いを発表する。</p> <p style="text-align: right;">（2）</p> 	<p>自分たちが足りなかったことに気づき、それらを明確にするために話し合うことができる。        〈話し合いを通じて、自分の考えを高める力〉</p> <p>地球環境や海洋の問題の解決につながる提案を、大人の人にすることができる。        〈プレゼンテーション力〉</p>
<p>27 ～ 30</p>	<p>○ 自分たちの考える只見町の価値について考える。</p> <p>・ 守るべきふるさとの価値について考える。        （2）</p> <p>・ ふるさとの町作りについて話し合う。        （2）</p>	<p>自分の考えをもち交流することができる。        〈コミュニケーション力〉</p> <p>学んだことを振り返りながら、守るべき故郷の価値について自分の考えをもち、話し合うことができる。        〈コミュニケーション力〉</p>
<p>31 ～ 39</p>	<p>○ 1年間の学びをまとめ、海洋サミットで発表し、多くの人に自分たちの思いを届けよう。        ・ 発表の準備をしよう。 （3）        ・ 発表をしよう。        （全国海洋サミット）</p>  <p>○ 地域成果発表会で、多くの人に自分たちの思いを届けよう。        ・ 発表の準備をしよう。 （2）        ・ 発表しよう。 （4）</p>	<p>ふるさとを持続・発展させるために考え、未来に向かって行動することができる。        〈プレゼンテーション力〉</p> <p>自分たちの思いが伝わるように発表することができる。 〈プレゼンテーション力〉</p>

## 2. 学習活動の実際

### 2-1. 単元における位置づけ

単元 

39
----

 時間中の 

25
----


 時間目

### 2-2. 本時の目標

自分たちの思いを発表する上で足りなかったことに気づき、そのことを確かなものにするために話し合うことを通して、一人一人が町下庁舎に行く目的を明確にもつことができる

(思考力、判断力、表現力等) <話し合いを通じて、自分の考えを高める力>

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)	
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>(1) 前時の学習についてふり返る。</p> <p>○どんなアドバイスをうけたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・何しに行くのか分からない。</li><li>・グローバルな話で只見の人には伝わらない。</li></ul> <p>(2) めあてを確認する。</p> <table border="1" data-bbox="116 1171 770 1290"><tr><td>本当に伝えたいことが伝わるようにするために改善しよう。</td></tr></table> <p>2 伝えたいことが伝わるようにするためには何が必要なのか話し合う。</p> <p>○全体で</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・只見の内容も入れたい。</li><li>・具体的にやってほしいことを伝えた方がいいね。</li><li>・身近に感じてもらえるようにしたい。</li><li>・もっと危機感が感じてもらえるようにしたい。</li></ul> 	本当に伝えたいことが伝わるようにするために改善しよう。	<p>※ 前時に受けたアドバイスを想起させることで、本時の学びを明確にする。 【仕込み】の活用</p> <p>○ 児童の思考の流れを大切にするために、あえてそのまま板書し、後でふり返ったときに自分たちに必要箇所を選択し、活用できるようにする。</p> <p>※ 一人一人が自分たちの伝えたいことが伝わるようにするために真剣に考え、よりよい資料にするための話し合いができるような発問、問い返しやゆさぶりを入れるなどしてコーディネートする。 【問い】の活用</p>
本当に伝えたいことが伝わるようにするために改善しよう。		

3 自分たちの資料を見て改善することを話し合う。

(1) グループで

(2) 全体で

4 本時の学習の学習を振り返る。



○ 児童の資料は、いつでも確認できるように掲示しておく。

◇ 伝えたいことが伝わるようにするために、自分たちの資料に必要なことを補うための話し合いを行うことができたか。(発言・ワークシート)  
〈話し合いを通じて、自分の考えを高める力〉

○ 本時の感想を記入し発表することで、一人一人が明確な目的をもち次の学びが行えるようにする。

○ 次時は、町下庁舎での発表に向けて、発表資料の改善を行い、発表に向けて資料を一つにしていくことを確認する。



### 3. 今回の活動の自己評価

- 町長や町の幹部の方々に発表するための発表資料を外部の方に見ていただき、「何のために発表するのか。」「発表を聞いてもらって何をしてほしいのか。」ということを描き出してもらう活動を設定したことで、本時では、前時で受けた指摘を受けて、自分たちに足りなかったことを明確にし、それを解決するために話し合えるようにした。子供たちが、課題をより自分事にとらえ、自分たちの行動は夢物語ではなく、解決に向けての確かな一歩になることを実感でき、主体的な学びへとつながった。
- 自分たちの考えをまとめていく前段階として、一人一人が思いや願い、課題意識をもって学びに向かうことはとても大切である。そのため、ペアでじっくり話し合い、自分たちで町長や町の幹部の方々に伝える発表資料・原稿を作成した。発表をよりよくするための話し合いの際に、一人一人が発表内容を自分事として捉えるのは勿論、思いをもって参加できるよう配慮した。
- 前時で、外部講師より「何のために町下庁舎で発表を行うのか。」ということと、「自分たちの発表を聞いてもらって何をしてほしいのか。」という具体的なアドバイスをいただいていたので、子供たちの中で既に本時の課題が明確になっていたことで、スムーズに導入することができた。
- 話し合いの場面では、お互いの顔が見えるようにすることで話し合いを活発にできるようにした。また、日頃から自分の意見をもち意見を交換する場を設定しているので、子供たち同士で話し合いを進める姿が見られた。話し合いのルールができていた。

### 4. 今後の課題

- 発表する相手によって伝えたい内容が変わるため、誰に伝えるのかということを確認にしたかったが、町長、教育長さらには町の人に伝えたいということをお子たちの言葉で引き出すのが難しかった。
- 子供たちの思いを引き出すための発問や問い返し、ゆさぶりを心がけたが難しかった。子供たちが出した考えと指導者との考えにズレがあった。子供たちのつぶやきや意見を聞き逃さず拾って良い意見を広げていけるようにするためのコーディネート力を磨く必要がある。
- 子供たちの意見を、町長や教育長にお願いしたいことという視点と、一緒にやって欲しいことという視点を指導者が整理してあげることで、子供たちの思考が整理されたのではないか。また、自分たちが行ってきた「ワンステップアクション」に立ち返ることで思考が整理されたのではないか。
- 子供たちのつぶやきの中に良い意見がたくさん出ていた。指導者が、子供たちの発言を拾い広げていくことでより子供たちの話し合いに深まりが見られるようになる。見取りと、コーディネート力の研修を続けていく必要がある。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 「自分たちのふるさとを守るためには、地球環境や海洋の問題を避けて通ることはできない」ということに気付けるよう、最近気になっている異常気象の事例から、環境問題や海洋の問題を調べたり、その原因について調べたりする時間を十分確保し、それらの問題は他人事ではなく、自分たちにも大きく関わる問題であることに気付けるよう配慮しながら進めてきた。また、解決のための行動も、単発なものにならないように、自分たちの行動の成果や課題について話し合いながら学習を進めてきた。更に、自分たちの実践してきたことに自信をもち多くの人達に伝えたいという子供たちの思いが実現できるように、町長はじめ町の幹部の方々に発表する機会をいただく等、子供たちが主体的に学びに向かえるように工夫し学びを進めた。